

第5回 著作権教育実践応募事例に関する選考委員コメント

長野県 上田市立菅平中学校

著作権とは何かを知り、グーグルによるデジタル化した書籍の全文検索サービスについて考える

- ・最近話題となっている著作権の問題を取り上げることは生徒の関心もあることから着眼点としては大切なことである。しかし、この教育活動で教師の役どころが不明である。
- ・ねらいである「ネット時代の著作権を知る」という設定は曖昧。また、第1時と第2時の連動がとれていない。
- ・最近の新聞記事を取り入れることは、生徒の興味・関心を高めると思う。指導者が普段から著作権教育に関心を持っていないと、このような実践はなかなかできないだろう。体験と関連させるなどの工夫があると、更に効果的であると感じる。
- ・中学の「道徳」の時間で、具体的な記事を教材として使用しているのもよいテーマであるが、授業の流れが明確でない。
- ・義務教育最終学年の中3対象と言うことで、グーグルによる書籍電子化というホットなテーマを社会事象として扱った実践である。出版社、作家、読者の立場からグーグル問題を考えるというロールプレイの手法は、社会的な問題を考える上で有効であり、正解のないオープンエンドの課題を扱う道徳科に適した学習活動であると考えられる。
- ・課題設定が難しいように思う。
- ・他校が取り組むには、テーマからして、少し難しいように思う。
- ・独自の著作権教育の視点で、専門的な人からの評価は、高いように思う。
- ・ストーリーがあって、授業を進める上で、いくつか参考になるところがある。
- ・新学習指導要領に合わせて、道徳の時間として著作権を取り上げている。
- ・生徒はいい感想を書いている。
- ・授業の構成に山場が感じられない。
- ・インターネット時代の著作権を学ぶという観点から、生徒たちが自分たちの日常生活の中での著作権を考えるきっかけになっている点を評価。
- ・中学校での道徳での実践が素晴らしい。(新学習指導要領にも沿っている)。内容もグーグルによる書籍電子化など、タイムリーな内容となっている。授業のねらい、流れが明確に示されていなく分かりづらいのが残念である。